

第15期「絵本講師・養成講座」を受講して

絵本の力を信じて

松坂 明美

絵本を理解する貴重な体験

吉田 和生



私は子どもの頃から絵本が好きで、今も自宅にはたくさんの絵本があります。社会人になってからはアナウンサーという仕事柄、読み聞かせの機会が何度かありましたが、読み聞かせは奥が深く、難しさを感じていました。読みのテクニックだけでは成立しないのです。いつか本格的に絵本を学びたいという思いは強くなっていきました。

昨年出産し、初めての育児で悩むことも多くありましたが、何回も絵本に助けられ、魅力を感じて実感していました。そして、ますます絵本の世界に飛び込みたくなりました。思い立ったら即行動！というタイプの私は、その勢いのまま事務局に電話、第15期講座の開催前日のことです。私の急な電話にも快く対応して下さい、そのまま次の日の講座に参加出来ることになりました。

数年前に一冊の絵本に出会い、友人に勧められ、大人向けの絵本の読み聞かせの会に参加しました。その時に読んでもらった一冊が子どものころ読んでいた気持ちを思い出させてくれました。大人になった今でも、絵本から受け取るメッセージがあるということを実感し、絵本のすばらしさを伝えたいと自分も大人に向けて絵本を読むようになりました。

大人への読み聞かせをしていると子育て中の皆さんからお子さんへの読み聞かせについての質問を受けるようになりました。そんなお母さんたちのお役に立つために、学びを深めたいと考えたことが「絵本講師・養成講座」の受講を決めた一歩の理由です。

毎回の講座では、第一線で活躍されている絵本作家、評論家などの方々の講演があり、作品の背景や作品への思い、創作の裏話、絵本を介した親子のコミュニケーションなどこの講座でしか聞けない大変貴重なお話が満載でした。

グループワークでは、様々なバックグラウンドを持つ方々の多様な意見を聞き、議論するなかで子育てにおける絵本の役割などへの理解が深まりました。「絵本講師・養成講座」は、単にテキストを読み、内容を理解し覚えるというものではありません。講演を聞き、グループワークで話し合い、課題レポートを作成することで自分で考えながら「絵本」への理解を深めていく過程を体験するものであったと思います。そして、この過程を通して、「絵本で子育て」の意義を単に頭で理解するだけでなく、実感すること、絵本講師として自信を持って講座ができるカリキュラムであったのだと修了レポートの作成を終えた今実感しています。

これから子育てをする若いお父さんやお母さん、そして世代のお父さんにもお役に立つ講座だと思います。是非、お父さんもお母さん受講されてみてはいかがでしょうか。(よしだ かずお)

講座では、絵本の素晴らしい、絵本で子育てをすることの大切さなど多くのことを学びました。私自身が子育てで勉強になることがたくさんあり、家に帰って実践したり、家族や友人に伝えたりと、充実した日々を送ることが出来ました。娘を産み出した後、一人課題と向き合っている時間、途中何度も泣きながら中絶し、全くはかばかなく、毎朝の切り干し干りに提出したこと、今は思えば、どれも良い思い出です。

子育てをして1年ちょっとの私が絵本で子育てについて学んだこと……、葛藤もありましたが、同じ目標で、一緒にやってみませんか？と伝えていきたいです。今、子育てを取り巻く環境が大きく変化しています。スマホやテレビに触れない日、電子音を聞かない日はありません。このような毎日の中でも、絵本を読んでいる時は子どもと向き合い、ほっとする温かな時間にして欲しいと、心から思います。絵本が結んでくれた縁を大切にしながら、絵本の力を信じて、活動していけたらと思います。(まつざか あけみ)

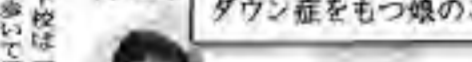
（まつざか あけみ）



「絵本で子育て」講座を受講して、下級生は親育ち、上級生は子育て、親子ともに絵本の世界に没頭して、自分自身も絵本の世界に没頭して、自分自身も絵本の世界に没頭して、自分自身も絵本の世界に没頭して……

わたしの子育て？ 子育ては親育ち

其の六 ダウン症をもつ娘のこぼれ育ち



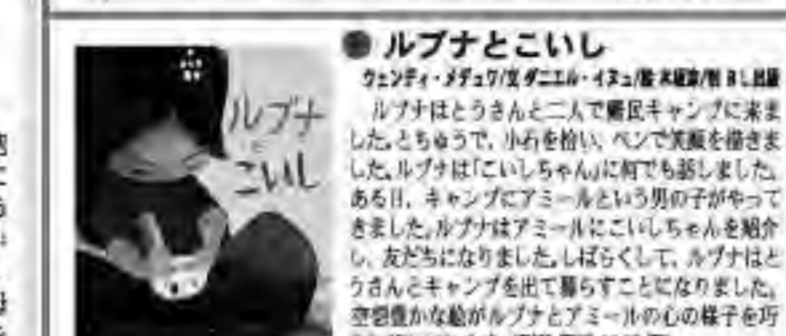
多木 妙吉 (絵本講師)

我が家は今年、地域の小学校の5年生になりました。学校が大好きな娘は、朝は集団生活、放課後には習い事、そして週末には友達と遊ぶのが大好きです。娘は今年、地域の小学校の5年生になりました。学校が大好きな娘は、朝は集団生活、放課後には習い事、そして週末には友達と遊ぶのが大好きです。

絵本を読んであげましょう

絵本の内容は覚えていなくても、読んでもらったと……

土居安子の おすすめ絵本



ルプナとこいし

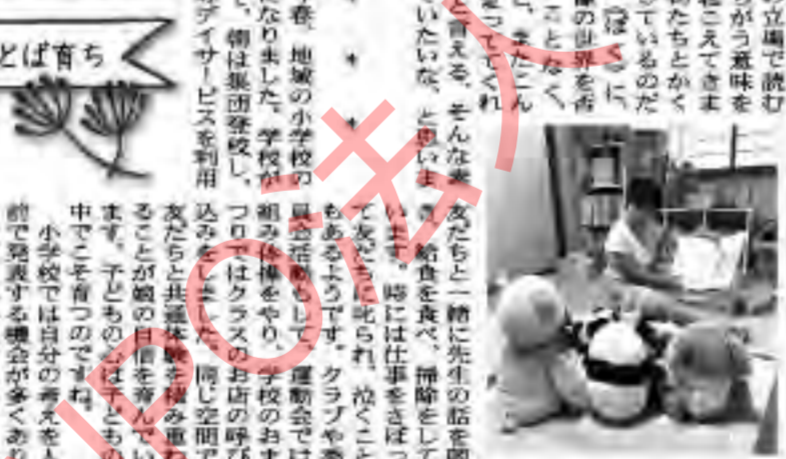
ルプナはとうきょうと二人で農民キャンプに来ました。とうきょうは、小舟を買い、ペンで風景を描きました。ルプナは、いっちゃんに何でも話しました。ある日、キャンプにアミールという男子の子がやってきました。ルプナはアミールにこいしちゃんを紹介し、友だちになりました。しばらくして、ルプナはとうきょうとキャンプを出て暮らすことになりました。空想豊かなルプナとアミールの心の様子を巧みに書いています。(税込価格 1620円)

おにいちゃんとぼく

「ぼく」が友だちのマルロスとの付き合い方をおにいちゃんとの付き合い方を比較しながら両方の美しさを伝えている絵本。一人ひとりがマルロスの家ではおうちの兵隊でぼく、おうちの親のそばにはおうちの兵隊でぼく、おうちの親のそばにはおうちの兵隊でぼく……

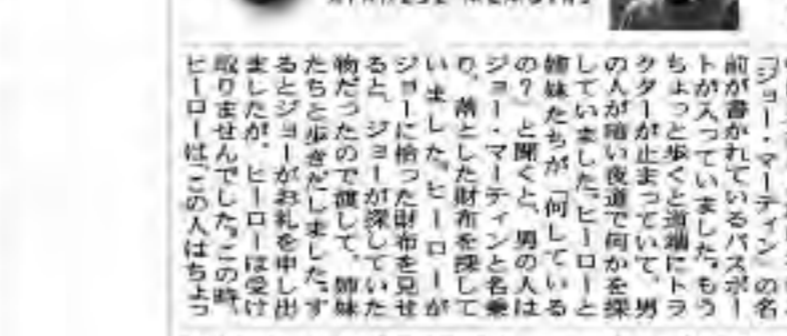
草木とみた夢

江戸時代の終わりに生まれた牧野富太郎は、子どものときから草や木が大好きで、いつも山で観察をしていました。大人になるまで観察を続け、俳句と雑誌『植物学雑誌』を創刊し、新種の植物を発見しました。けれど、学歴のない富太郎をとうとうしんじ人たちが出てきて、富太郎は貧しい生活をしなければならなくなります。それでも富太郎は研究を続けました。道楽家でもある富太郎が夢中になった草や木、愛情をこめて書いています。(税込価格 1728円)



子どもたちは、じつと 私たち大人の行動を みつめています

ジェリーの 日本見聞録

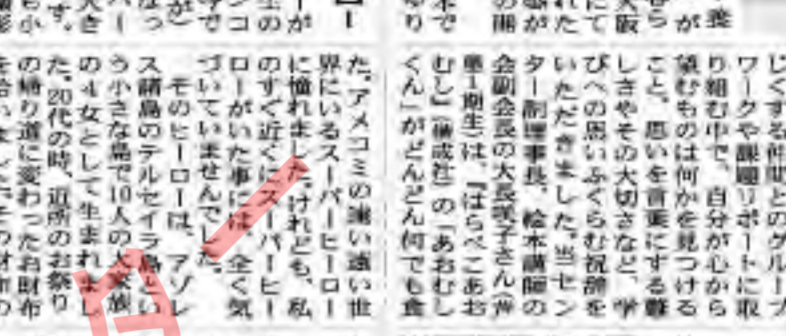


ジェリーはマーガレットと同じ出身地、同じ教育を受けたが、大人になってもジェリーはアメリカの牧場を愛している。ジェリーは、おにいちゃんに「ぼく」が友だちのマルロスとの付き合い方をおにいちゃんとの付き合い方を比較しながら両方の美しさを伝えている絵本……

『もっとおおきなたいほうを』

「もっとおおきなたいほうを」……

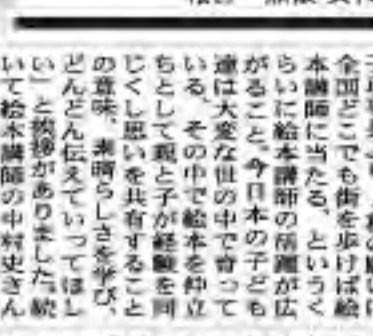
遠い世界への窓 XIII



あたたかい時代が……

前田 君江

根っこのある ことばで 子どもたちに語ろう



子育ては親育ち、親子ともに絵本の世界に没頭して……

子育ては親育ち、親子ともに絵本の世界に没頭して……